

## カタクチイワシ移殖試験

上 地 清 吉

沖縄の近海カツオ漁業は、毎年エサ不足が悩みのたねで、斯業発展の阻害要因ともなっており、これが打開策の一環として、適種、カタクチイワシを図南丸で購入、運搬して、次のとおり放流移殖試験を行なった。

回次	放流年月日	放流場所	購入先	放流量	体長	熟度
第1回	1970年 1月27日	西表島舟浮港内	長崎県西彼杵郡 畑下	約600kg 9万尾	28.3~102.4mm	未熟
第2回	3月 <sup>〃</sup> 2日	全上	全上	約600kg 8~9万尾	70.7~90.4mm	初熟

2回目の移殖試験は、放流当日に、集魚灯を点灯した結果、灯火の近くを一团となって旋回するのが見られた。

2日目からは、船体を離れて集魚灯下にも見られなかった。

3日目には、放流場所から、およそ500米離れた舟浮港、奥の水深5~6米の浅い場所で底刺網に2尾かかり、再捕された。その後も他の事業の片手間に追跡調査を行なっているが、行方については、まだ明らかにされていない。